

第1号議案

事業報告書

平成25年4月1日から

平成26年3月31日まで

平成25年度は、当財団の財団設立30周年を記念して春には愛知県陶磁資料館（現在は「愛知県陶磁美術館」）と共催で「茶人のあそび心 形物香合番付の世界」を開催するとともに、『野村得庵の文化遺産』を発行するほか、碧雲荘において記念茶会を催すなどの取り組みを行い、それぞれ一定の成果を上げました。その一方、今年度の入館者数は、前年度比マイナス11%と昨年度実績を下回りました。また、資金運用については、財産管理運用規定を遵守する中、果実を多く見積もることが困難な状況が続いております。国内経済の景気についても株価などに若干の回復は認められるものの、未だ社会全体に行き渡っているとはいえない状態です。また、引き続き金融緩和策がとられる中、低金利状態が続くことが予想され、当財団の資金運営は、引き続き厳しいものがあると言わざるを得ません。

事業活動としては、展示部門では一階主展示室において、春季には「茶人のあそび心 形物香合番付の世界」及び「開館30周年記念 名品展Ⅰ」を、また秋季には「開館30周年記念 名品展Ⅱ」と題し館蔵名品等を展示しました。また、今年3月8日春季開館からは、「大田垣蓮月尼展 幽居の和歌と作品」をテーマとして個人の収集した作品の企画展示を行いました。

地階展示室においては、25年春に「京焼のうつわ」、秋に「知られざる近代の画家たち」、「立花図屏風と花入展」と題し、館蔵品の展示を行うとともに、個展として25年秋に長岡空郷氏が「出雲焼楽山窯 長岡空郷茶陶展」、青山双男氏が「草の頭窯 青山双溪（双男）茶陶展」、山崎脩、甲斐玲子氏が「”幽 山崎脩・甲斐玲子展”」、杉本貞光氏が「杉本貞光陶展/侘び寂びに思いを」、村田浩一郎氏が「志 こころざし 村田浩一郎茶堦展」、開山慧惺氏が「開山慧惺禅師 禅書画話頭展」を開催され、各展ともに好評でした。

展示部門以外では、地階ホールにおいて春季2回、秋季3回、計5回の講演会を催し、館外から写真家の竹田武史氏、煎茶美風流家元の中谷美風氏、京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏の各先生方と当館からは館長の谷晃、主任学芸員の桐山秀穂を講師とし、充実した講演会を開くことができました。

その他の事業活動としては、「研究紀要」第23号を発刊いたしました。また、読書会等も「茶会記を読む会」を10回、「古筆の会」を10回開講しました。

当期の入館者数は16,338人となり、前年度に比し2,015人の減となりました。財務面につきましては、種々の記念事業を行う中、費用の増とともに収入の確保を行うことで、固定資産の取り崩しは免れました。

(一)施設部門

特になし。

(二)展示部門

(1) 野村美術館本館（1階展示室）

(イ) 「茶人のあそび心 形物香合番付の世界」展

25年 4月 1日 ～ 4月14日

開館日数 13日間

(ロ) 「開館30周年記念名品展Ⅰ」

25年 4月16日 ～ 6月 2日

開館日数 41日間

(ハ) 「開館30周年記念名品展Ⅱ」

25年 9月 7日 ～ 12月 8日

開館日数 80日間

(ニ) 「大田垣蓮月尼展 幽居の和歌と作品」

26年 3月 8日 ～ 3月31日

開館日数 19日間

計 153日間

(2) 企画特別展（地階展示室）

「京焼のうつわ」

「知られざる近代の画家たち」

「立花図屏風と花入展」

各1回 計3回

(3) 個展

出雲焼楽山窯 長岡空郷茶陶展

10/22~10/27 6日間

草の頭窯 青山双溪（双男）茶陶展

10/29~11/4 7日間

“幽 山崎脩・甲斐玲子展”

11/6~11/10 5日間

杉本貞光陶展 / 侘び寂びに想いを

11/12~11/17 6日間

志 ころざし 村田浩一郎茶坑展

11/19~11/24 6日間

開山慧惺禅師 禅書画話頭展

12/3~12/8 6日間

(三) 講演会、研修、茶会	
記念茶会（於：碧雲荘）	3日間
館内 定期講演会	5回
新茶文化講座	2回
茶会記を読む会及び古筆を読む会	20回
研修茶室の利用	29回

(四) 調査、刊行

(イ) 調査 所蔵品研究のための調査出張

(ロ) 刊行 『野村得庵と文化遺産』

『韓国茶文化』（韓国語版）

『研究紀要』第23号

(五) 館蔵品の補修

能面7点他

(六) その他

特になし

(七) 入館者数

平成25年春季展（4月1日より） 6,201名

 " 秋季展 8,566名

平成26年3月8日から3月31日まで 1,571名

計 16,338名